

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 (令和5年度)

法人名	株式会社 美空	代表者	津野 克久	法人・事業所の特徴	株式会社美空は、高知県南国市・香美市に高齢者介護の事業を展開しています。現在、地域通所介護事業所を3軒、小規模多機能型介護事業所を2軒運営しております。地域に根差した介護を心掛け、利用者様、ご家族様の思いに寄り添ったケアを提供できるよう、日々取り組んでおります。
事業所名	小規模多機能ホーム みそら山田	管理者	津野 優子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	1人	0人	3人	0人	0人	9人	0人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ol style="list-style-type: none"> 自分の思い込みで行動せず、出勤日には必ず新たな情報が届いていないか確認する。一部の職員間のみで情報共有せず、些細なことでも申し送りノートを活用する。 細かいプラン内容まで記憶することは難しいが、各利用者の大まかなゴールやどうなりたいかを把握することでそれに向けてのかかわり方を実践できるように努める。 マンパワー不足や時間に追われる業務の中でも、出来る限り利用者に寄り添い、気持ちを察してケアしていく事に努める。 香美市の中で利用できる資源や場所を探し、今後のサービスに活用することに努める。 計画を立てて地域の中の資源を活用する。 昨年同様、最小限での関わりや会議になるが、電話や書面などの方法も利用して、情報交換し連携を図る。 地域との関わりを持ち、出来るだけ行事や会合に参加する。 ディスカッション形式の研修を増やし、意見交換の場に慣れていく。 拘束につながる言葉遣いの見直し、意識付け。 	<ol style="list-style-type: none"> 新規利用者は利用開始前に基本情報を作成しミーティングや個々の確認作業を促すことで実施できている。知り得た情報は口頭だけでなく申し送りノートや個人書類への記載を徹底し、全職員が出勤日には閲覧、申し送りにて把握できるようにした。 本人の意向を確認できる場合は、普段の会話の中で聞き出し、ご家族からの聞き取りにも取り組んだ。 送迎時の車内でのコミュニケーションや入浴などの個別対応のタイミングで本人と向き合い、気持ちを伝えて頂けるような関係性作りや環境作りに取り組んだ。 ケアマネジャーや管理者は取り組みに対し必要性を感じるが、その他の職種には必要性を感じることがなく、個々に積極的に取り組む内容ではないと認識している。 地域の中の資源を新たに探したり、活用することに必要性を感じることがなかったため、積極的な取り組みが行われていない。 管理者やケアマネジャーの業務として実施する機会が多く、他の職員が取り組む機会が少ない。 事業所のある地域の行事や、事業所実施の運営推進会議などに、一部の職員しか参加できておらず、 	<p>全員の職員で取り組めた結果であることはわかった。(1年目の技能実習生には、内容が難しすぎて説明しても理解が不十分であったため今回は不参加) 質問によっては回答が「はい」「いいえ」どちらに当てはまるのか、捉え方がわからなかった。</p> <p>課題に対しての具体的な取り組み方法、それに対してどの職員がどの程度できたか、出来ていない職員のフォローがあったのか等知ることが出来ない部分がある。</p> <p>年に1回、自己評価、外部評価を実施することにより、事業所自体、職員一人ひとりが見直して、確認する、改善したり意識するための良い機会となっている。事業所のこの取り組みや努力を行うことだけにとどまらず、多くの方に知ってもらい、行政側も事業所に対して評価や助言などをして、業務改善やレベルアップなどに関わるべきである。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 勤務前後に申し送りノートを確認する(2回/日)情報の更新があった際に把握が遅れないために。 その人がどういう暮らしをしたいのかをモニタリングの際に考え話し合ってみる。 個別ケアのタイミングで本人との会話を大事にし、一人一人との関わりを深めていく。 本人と地域との関わりについて情報収集に努める。 利用者それぞれの地域の資源や、ケアに活用できる場があるかどうか、勉強会を実施していく。 参加経験がない職員が、会議や地域の活動に参加する機会を作る。 事業所の運営状況についてすべての職員が把握できる機会を設ける。 会議の際には必ず自分の意見を発表し、議題の解決につなげる。 行動を制止する際には理由を伝え、理解を得るよう心がける。成年後見制度についての勉強会を行う。

		<p>他の職員が参加できるように取り組むことが出来ていなかった。</p> <p>8. 研修会や職員会議内でディスカッションできるように、事前に議題の提議を行い取り組んだ。</p> <p>9. 事業所の目標とし、職員間で注意しあいながら取り組むことができ、以前よりは改善している。</p>		
B. 事業所のしつらえ・環境	清潔な環境、居心地の良い空間を維持する	毎日の掃除、換気、消毒等にて、利用者が使用する空間の清潔を維持できている。	施設見学の際に事業所内を拝見しましたが、清潔な印象でした。隣の敷地の業者からの騒音や埃が気になります。	「清潔で居心地の良い環境でご利用者に過ごしていただく」 騒音や埃などに関しては、当事業所だけでなく行政にも相談して改善できるように取り組む
C. 事業所と地域のかかわり	地域の会合や行事に参加する	地域の会合や一斉清掃には管理者のみが参加。災害訓練や神祭には少数ではあるが職員の参加ができた。	多数の職員が参加することは難しいことなので、参加した者が内容を報告することで他の職員が周知できるようにしたいのではないかと。職員の方々はみな挨拶がよくできている。技能実習生も同様。事業所がある地域の中でも事業所の存在を知らない住民がいる。事業所独自の宣伝方法を検討してはどうか。(名称がわかりにくい・サービス内容が想像しづらい) また行政にも協力を得て広報誌などで紹介してもらおう方法もいいのではないかと。	「地域の会合や行事の日程、内容を周知する」 参加した者からの報告にて活動内容を周知していく。事業所の存在を知ってもらう取り組み。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	利用者とともに地域、近隣に外出し、交流を試みる	利用者と一緒に近所を散歩したり、花見に出かける。事業所近くの商店や利用者宅近くの商店を一緒に利用する。その際には外部の方との挨拶やコミュニケーションにも努めている。	活動報告にて、屋外でのイベントや外出ができていくことがわかる。利用者だけでなく、その他の心配な方に関わりを持っていることも認識できる。	「地域、近隣の活動やイベントに利用者とともに参加する」 利用者の住んでいる地域との関わりを増やしていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	多様な職種、立場から意見や助言をいただき、運営に反映させる	健康介護支援課、民生委員との情報共有や相談、助言により、改善につなげることができている。民生委員の施設見学にもつながることが出来た。	事業所側から利用者以外の方の相談や情報等も報告があり、参加者からも地域の実情を聞くことができ、情報共有の場になっている。会議への家族の参加率が低い。実際に利用している方の意見やお話をもっと聞けたらいいと思う。	「多様な職種、立場から意見や助言をいただき、運営に反映させる」 運営推進会議の報告内容や資料を見直し、より詳しくわかりやすく発信できるようにする。不参加の方にもっと情報発信していく。
F. 事業所の防災・災害対策	災害想定避難訓練を定期的実施していく	令和6年3月末までにBCPの作成を完了しました。 5月、11月には防火訓練を実施。 11月地域の災害避難訓練に職員1名、利用者1名参加。	訓練を実施したことを直接ご家族に報告するようにすれば、HPや紙媒体での報告以上に知ってもらうことが出来る。 事業所の訓練に家族や多数が参加する	「訓練を実施しBCPの内容の強化を図る」 事業所内だけの訓練ではなく家族、利用者との連絡や情報共有の訓練を実施

			ことは難しいが災害想定での連絡訓練（電話やメール）は実施したらいいのではないか。今回作成したBCPを使ってこれから訓練をして、その都度見直しや修正をすることでよりの確な内容になってくると思う。依頼があれば行政の訓練への参加も検討します。	する。これまでは避難訓練をメインに実施してきたが、BCPに基づき訓練内容を見直す。
--	--	--	--	---

作成日 令和6年3月25日